

好く此んな所を、くらがりて通れたものだと、自分ながら驚く。

獵銃を肩に擔いで、彈丸を腰に巻いた男が、二人自轉車に乗つて來るのにすれ違ふ。

僕の心はおびえた。

疲れ切つてゐた。

牛に材木を脊負はせてゐる所があつた。

雪が　ラチラ降り出した。

芝居の旗を立てた、町廻りの樂隊の馬車の行列が、ブカブカドンドンやつてゐる。

僕は其の先頭になつて暫らく走つた。

そして家へ歸つて、敷つ放しの布團にもぐり込んで休む。

ホクロが勘當されて、ナカ屋に居ると聞いたので、東京から手紙と雑誌を送つた事がある。

それがホクロの手に渡つたか知らないと言ふので、ナカ屋の親父と喧嘩した。

新聞扱店へ行つて、新聞をあしたから配つてくれと言つてもとり合はないので、

『馬鹿にすると擲り殺すぞ』と怒つてやつた事もある。